

澤喜司郎先生のご退職にあたって

澤喜司郎先生は平成28年3月31日をもって、本学を定年によりご退職されます。先生の36年の長きにわたるご貢献に心より感謝し、本号を退職記念号として発行いたします。

先生は関東学院大学経済学部をご卒業の後、同大学院経済学研究科に進まれました。博士課程を修了された後、昭和55年4月に専任講師として経済学部を迎えられました。設置後間もない国際経済学科国際経済システム講座を担われ、昭和57年8月に助教授、平成2年2月に教授に昇任されました。先生は交通論、海運論、交通経済学、国際関係論がご専門で、教育、研究、運営など様々な面において活躍され、経済学部はもとより山口大学の発展に寄与されました。

先生はご着任間もない昭和56年に「イギリスにおける不定期汽船会社の設立：その船主別設立形態の考察を中心に」を本誌にお寄せいただいて以来、本学会はもとより本学東亜経済学会、日本海運経済学会、日本港湾経済学会等々において、数多くの学術論文を世に問われました。先生のご研究は交通や物流の経済学的側面に留まらず、地方交通理論の再構築、あるいは「交通事故はなぜ起こるのか」「人はなぜ交通事故を起こすのか」といった交通経済心理学的な側面にも視座を広げられました。また、交通の文化的側面における研究では、中国、台湾、韓国、香港との交通文化の国際比較研究により、交通文化論の研究領域の深化に貢献されました。

国際関係や安全保障に関する研究では、アメリカの一極支配構造の解明に取り組みられてきました。本年2月27日におこなわれた最終講義は「中東アラブの不安定化と米国」という題目で、オスマン帝国の崩壊前夜からの歴史的背景、イスラム教の宗派对立、

アメリカやロシアとの関係、さらに地政学的見地から不安定化の様相と今後の推移を説明されました。ご講義のなかで「学問上の議論は誌上にて」という言葉があり、学問に対する先生のお考えを窺い知ることができました。

先生は教育においては、学部の海運論、倉庫論、物流論、国際関係論等を講義されました。とりわけ「交通論おもしろゼミナール」シリーズは先生のご研究の成果の一端を教育に還元するもので、学生にはおもしろく分かり易いと評判でした。また、大学院では交通論特論、海運論特論、国際産業研究、交通計量経済研究等の講義を担当されました。ゼミナールの卒業論文や修士論文では、自分の意見を主張することの大切さを厳しく指導され、多くの学部学生や大学院生を世に送り出されました。

先生は大学・学部運営においても多くの委員を真摯に務められました。学内では、学生部委員をはじめ、研究科運営委員会、学生委員会、就職支援委員会、財務施設委員会等の各種委員会委員長を歴任されました。学外では、運輸省運輸技術審議会特別委員、国土交通省社会資本整備審議会専門委員、大学基準協会専門評価分科会委員、山口県地方港湾審議会委員、国土交通省中国運輸局山口県離島航路活性化協議会座長を歴任され、また山口県交通安全教育施設運営委員会委員として交通安全の実現に尽力するなど、広く社会に貢献されました。

先生は、ご出張や余程のことが無い限り早朝より大学に来られ、土日盆正月なく夜遅くまでご勤務されました。周りに惑わされることなく、学生のことを第一に考えられ、誠実に教育研究に精励されました。

この度、定めによりご退職されますが、先生の長年の無私のご尽力に心より感謝申し上げます。先生は研究者人生を歩み始められた頃、著書50冊の目標を立てられ、達成間近とお聞きました。

目標達成の暁には、ぜひ新たな目標を掲げられますよう、また、これからも先生との絆が末永く続きますよう切望するとともに、先生のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

平成28年3月31日

山口大学経済学部長 成 富 敬